

プール水深とスタート台の高さに関するガイドライン

平成 17 年 7 月
(財)日本水泳連盟

水泳プールの飛び込み事故の問題については、その重大性にかんがみ、(財)日本水泳連盟は我国の水泳の統括組織としての立場と責任から、何らかの見解を明らかにすべきであるとの判断のもと、平成 16 年秋に水泳指導、建築、スポーツ医・科学、法律等の専門家を含めた「プール水深に関する特別委員会」を設置し、鋭意検討をすすめ、本ガイドラインを策定するに至った。

つまり、全国の既存プールには水深 1.0 ~ 1.2 m 程度の施設がかなり多いという状況の中で、競技会なりトレーニングを実施していかざるを得ないという現実的問題点を認識した上で、このガイドラインにより、重篤な飛び込み事故の防止を図ると共に、より安全でより合理的な水泳の普及・振興に結びつけようというものである。

1. 現行のプール公認規則(2001 年 4 月改正)では、スタート端壁前 6.0 m までの水深が 1.35 m 未満のプールではスタート台の設置を禁じている。しかし、これとても絶対的な安全な水深という訳ではない。如何なる飛び込み姿勢に対しても安全な水深となると、各方面の研究成果から判断して、現場の常識をはずれた深いプール(水深 3 m 以上)とならざるを得ない。
2. また一方、水深 1.0 ~ 1.2 m 程度のものでなければ、競技会以外の目的が多い一般の営業プールでは使い物にならないという現実もある。
3. また競技としては、ある程度の高さから飛び込みスタートするということなくしては、記録上の魅力は望めないという事情もある。
4. 熟練指導者の見解等から総合すれば、スタート台の高さは低ければよいというものでなく、安全で合理的なスタートのための、適切な高さというものが自ずと存在すると考えられる。(低すぎる場合、入水角度を得るために高く飛び出す傾向が生じ、かえって危険度が増すことがある)
5. そこで、全国のジュニアクラスの熟練コーチ約 400 名に対し、水深 1.0 ~ 1.2m 前後のプールにおけるスタート台として危険度の少ない高さについて、経験値としての判断アンケート調査を行った。その結果は、別表・別図のとおりである。これは水泳のスタート及び飛び込み事故に関わるスポーツ医・科学的研究の成果・報告と参照しても、飛び込みスタートの方法を十分習得している泳者の利用を前提とすれば、合理性のある内容とみることが出来る。
したがって、最も推奨件数の多い 0.20 ~ 0.40m 程度の高さを水深に応じて選択し、安全で合理的なスタート台の高さとして採用するのが妥当と判断される。
6. 以上より、「如何なる飛び込み状況の中でも安全を確保」という観点ではなく、水深 1.00m ~ 1.35 m 未満のプールにおける一般的競泳スタートとして、安全に配慮された(必ず自分自身の身体で水深を確認させた上で)飛び込みスタートを行う場合のスタート台の高さのガイドラインを以下の通りとする。

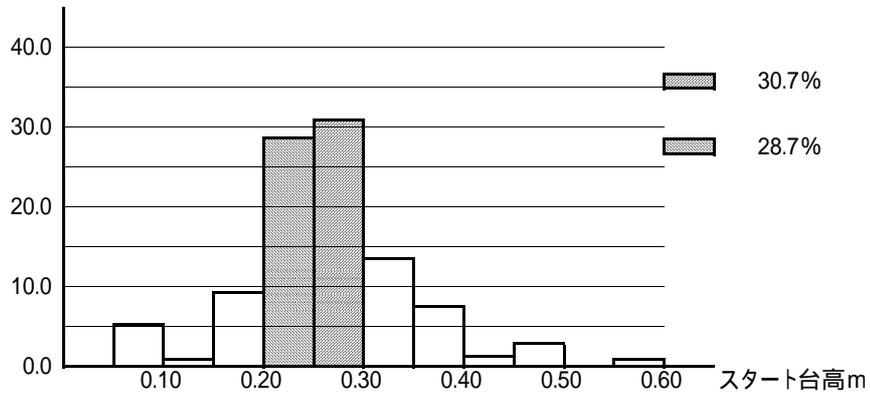
水深	スタート台の高さ(水面上)
1.00 ~ 1.10m 未満	0.25m ± 0.05m
1.10 ~ 1.20m 未満	0.30m ± 0.05m
1.20 ~ 1.35m 未満	0.35m ± 0.05m

7. このガイドラインは、全国の既存の水泳プールの現状と、競技会・トレーニングの実施状況に照らし合わせ、頸椎・頸髄損傷、四肢麻痺等の重篤な飛び込み事故の防止を図るために検討・策定された。しかし、これは「絶対的な安全基準」という性格ではなく、現実的な妥協点とも言うべきものである。したがって、本ガイドライン通りの設定で実施した飛び込みのスタートであっても、陸上、水中での姿勢・動作等の要因が複合すれば、プール底に頭部を強打して、飛び込み事故が起こるのも事実である。
8. 本ガイドラインは、必ずしも十分な水深がないプール施設での事故発生の危険性を、適切・合理的な飛び込みスタート方法（到達水深が深くないで速やかに泳ぎにつなげる飛び込みスタート）によって回避できることを前提としている。したがって、本ガイドラインに即さない施設の利用法や適切・合理的な飛び込みスタートができない泳者の利用により飛び込み事故が生じた場合には、施設の管理者や指導者の法律上の責任が問われる場合があることに留意が必要である。

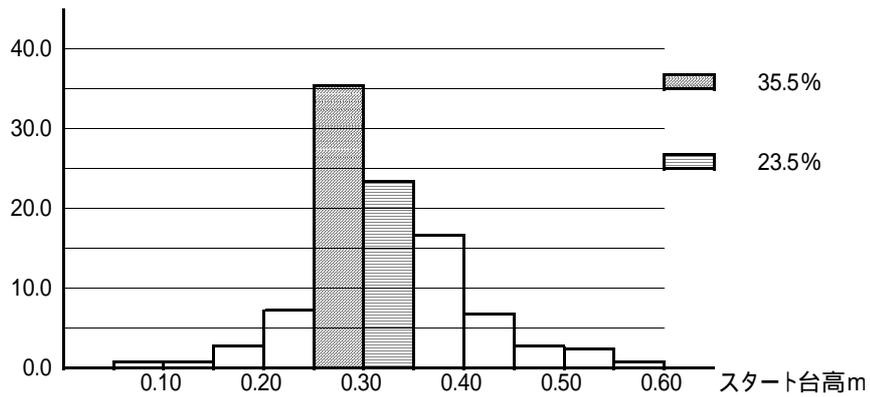
以上

<安全面・記録面を考慮したスタート台の適正高さに関するアンケート回答結果グラフ>

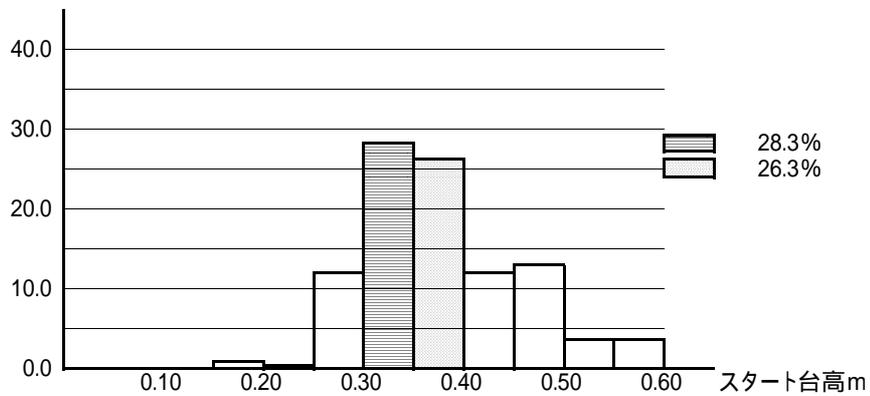
水深1.00～1.10mの場合



水深1.10～1.20mの場合



水深1.20～1.35mの場合



< プール水深に係わるアンケート回答集計結果一覧 >

スイミングクラブの現状(平素の練習プール)									
水深	数	%	累計数	%	台高	数	%	設置傾向	
1.00m以下	55	21.9%	55	21.9%	無し	23	9.2%	20cm以内	
1.10m以下	115	45.8%	170	67.7%	15cm以下	3	1.2%	立上り範囲	
1.20m以下	59	23.5%	229	91.2%	16～20cm	6	2.4%	32	12.7%
1.30m以下	21	8.4%	250	99.6%	21～25cm	2	0.8%	21cm以上	
1.40m以下	1	0.4%	251	100.0%	26～30cm	33	13.1%	スタート台	
					31～35cm	44	17.5%	219	87.3%
					36～40cm	43	17.1%	高さ傾向	
					41～45cm	21	8.4%	cm	数
					46～50cm	29	11.6%	30前後	36
					51～55cm	16	6.4%	35前後	50
					56～60cm	22	8.8%	40前後	36
					61cm以上	9	3.6%	45前後	20
	251	100.0%	251	100.0%		251	100.0%	50前後	33

安全面・記録面を考慮した適性高に対する回答									
1.0～1.1m(1.05m前後)			1.1～1.2m(1.15m前後)			1.2～1.34m			
台高	数	%	台高	数	%	台高	数	%	
10cm以下	13	5.2%	10cm以下	2	0.8%	10cm以下	0	0.0%	
15cm以下	2	0.8%	15cm以下	2	0.8%	15cm以下	0	0.0%	
20cm以下	23	9.2%	20cm以下	7	2.8%	20cm以下	2	0.8%	
25cm以下	72	28.7%	25cm以下	18	7.2%	25cm以下	1	0.4%	
30cm以下	77	30.7%	30cm以下	89	35.5%	30cm以下	30	12.0%	
35cm以下	34	13.5%	35cm以下	59	23.5%	35cm以下	71	28.3%	
40cm以下	18	7.2%	40cm以下	42	16.7%	40cm以下	66	26.3%	
45cm以下	3	1.2%	45cm以下	17	6.8%	45cm以下	30	12.0%	
50cm以下	7	2.8%	50cm以下	7	2.8%	50cm以下	33	13.1%	
55cm以下	0	0.0%	55cm以下	6	2.4%	55cm以下	9	3.6%	
60cm以下	2	0.8%	60cm以下	2	0.8%	60cm以下	9	3.6%	
	251	100.0%		251	100.0%		251	100.0%	

- 1 スイミングクラブプールの70%は、1.10m以下の水深であり、90%超は1.20m以下であった。
- 2 スイミングクラブプールのスタート台は、立上りの範囲(20cm)を超えるスタート台が85%設置されていた。